



花まるたより

2026
106

Hanamaru
Monthly
Newsletter



高濱 コラム

花まる学習会
高濱 正伸

2026年
6月

ハカセは素敵

を込めたメッセージをコラムとして書きつづけたこと、保護者会を頻繁に開き、学級の報告というより「講演会」をしてきたこと、その積み重ねの結果として教育の世界で意見を求められる立場になっていること……。本当に私とまったく同じ流れです。言いたいことがあふれているのでしゃべり出すと言葉がとどまることがないことや、そのこと自体を心から楽しんでいれることなども「似てるな」と感じました。

月刊誌『致知』の企画で教育評論家の親野智可等さんと対談しました。さまざまイベント等で何度もお会いしていてもじっくり対談するのは初めてでしたが、小学校で23年間教師をやった現場経験から積み上げた言葉は説得力がありました。彼は「学年先輩にあたるのですが、同時代に教育と格闘してきたからでしょうか、ほとんどの教育問題に対する意見がまったく同じと言って良いくらい似ていておもしろかったです。学校と塾という場は違えど、教育というフィールドで行動し思考しつづけるなかで、「同じ山に登ってきた」感じがしました。なんと言っても、現場の小学校で3年生の担任になって4か月もすると、「これは親を変えないと意味がない」と気づいたということ、そのために毎回のおたよりに思い

その対談で、「Aーの革命的進化などによって誰にも先がわからない時代に、親はどこに気をつけて子育てすればよいか」と司会の方から話題が振られたとき、彼が真っ先に提示したのが「ハカセ力」でした。例としてテレビ番組の「博士ちゃん」を挙げ、「他人軸でなくとことん自分の関心を追求する価値」に言及されました。私の近年の講演会をお聞きの方は、私もこの点を強調していることをご存じでしょう。興味深いのは、学校の先生出身でありながら、ハカセ力を伸ばすのは「もしかして学校よりもフリースクールのほうがじゃないかな」とおっしゃった点です。学校は旧来のスケジュールでパツパツだが、フリースクールはじっくり好きなことに集中できる時間が取れるという理由ですが、ちょっとギクリとし、ま

たワクワクしました。というのは、ご存じの通り吉祥寺の花まるエレメンタリースクールの嚆矢として5年目、アノネエレメンタリースクールや花まるA-I-S(Inclusive School)など、グループ内に多様なタイプのフリースクールが出現していますが、そこでわかったのは学校になじめない「グレーゾーン」の天才的ハカセちゃん」が多数存在するし、彼らはここでは自分らしさを発揮して生き活きと活動できているということです。私は密かに「これをガンガン進めるうちに、『あれ？ こっちも新しいタイプの学校と公式に認めるほうが社会にとってよいのではないか』というストリームができて、現在の学校システム（これはこれで約束を守り他人に優しくモラルの水準が高い人を育ててきた。それはたとえば、拾った財布を届ける人がほとんどという世界で稀な国家的文化を形成もしている）は活かす形での『多様な受け皿のある事実上の学校改革』を遂行できるのではないか」と夢想していたからです。

しかし、〇〇メソッドを販売するため、名前を売るために、極端な意見を言ったりするような俗人と異なる、いつも子どもや親のことを真摯に見つめバランスの取れたアドバイスを繰り返してこられた親野さんが「フリースクールの可能性」

お手続き期限・授業料等振替日の変更に関するお知らせ

いつも花まる学習会にお通いいただき、誠にありがとうございます。

このたび、花まる学習会では基幹システム変更に伴い、**2026年8月1日(土)より**各種お手続きの申請期限および授業料等の振替日を一部変更させていただくこととなりました。何卒ご理解のほど、よろしく申し上げます。

お手続きの申請期限は、退会が前月末まで、休会・コース変更が前々月末までと、これまでより少し早まります。

また、**授業料等の費用は、前月27日に翌月分を口座振替**にてお支払いいただくようになります。

そのため、**2026年9月は、9月14日(月)(9月分の授業料)および9月28日(月)(10月分の授業料)の2回のお支払いが発生いたしますので、ご確認いただけますと幸いです。**

なお、詳細につきましては改定後の会員規約をご確認ください。

岩田がんちゃん佳恵

育ったのは滋賀県大津市。マザーレイク、日本一の大きさを誇る琵琶湖のきらめきを見ながら北上する湖西線は、左手の緑の風景も含めて本当に美しい自然を満喫できる鉄道です。遠くに飛騨山脈を臨む景色も雄大です。小さい頃は「山猿メンバー」という秘密組織を結成し、裏手の山々へ冒険に行き、基地を作ったりダムを作ったりして遊びました。山の上に登ると広大な琵琶湖が眼下に広がるのでした。

に言及されたということは、「うん、これは夢想ではない。ひよっとしたら夜明けが近いぞ」と直観したのでした。

さて、ハカセちゃんのな人とは、実は私は大変相性が良いのです。大学から大学院時代に起こったのは「ほかの人とは交わらないけれどもなぜか私に寄ってくる」ちよっと変わった同級生たちが多くいたことです。おそらく私は「配慮」や「思いやり」とかではなく、本当に彼らの光る部分を見て感心していたので、相手も心地よかったのかなといまでは思いますが。友人の彼女などにしばしば言われたのは「高濱さんのお友達って変な人ばかりね」という言葉でしたが、私は「どこが変なんだよ、心が美しいんだよ彼らは」と思っていました。その流れなのか、ご存じの通り社員のなかにもリアルハカセちゃんが大勢います。歴史オタクの狩野崇や生物オタクの川幡智佳、読書モニターの平沼純など、各人著書も人気が開花しています。

そして、振り返るとこの巻頭文にも、図鑑の専門家のお二人の島での没頭ぶりに感動したことを書いた2024年6月末号『見上げる大人』や、つい先日「ハカセ力の新時代の旗手」とすら感じさせる「シジユウカラに言葉があること

を証明した鈴木俊貴先生」への感動を書いた2026年3月号『目指す大人』卒業するキミへ』など、何度もこの手の人物を題材にしています。「ハカセちゃん」たちの「何かを好きである美しさ」「一心に打ち込み探求しつづけるカッコよさ」「邪心のない素直さ」などに深く魅了されている私がいるのです。

ぜひお子さまのハカセ力を育てましょう。普段の花まるの授業は、基礎学力や思考力や自己肯定感などを育成することが目的です。没頭する時間が無尽蔵に必要な探求は家庭での自由時間でどう取り組むかという課題になります。そこで、昨年からは時間無制限の「自由研究」を推奨し、一年単位で賞を提供するように決めました。ぜひ、どんなシンプルなる自由研究でもよいので、取り組んで応募してほしいです。

それは第一に、現代でメシが食えるようになるハカセ力が身につく道です。実は「人としての魅力を増す育成方法」でもあると思います。目の前の他人に気を遣い、器用に喜ばせる駆け引きの力も間違いなく人間力の一つですが、ハカセちゃんたちは単独で成立している宝石のように純粋で硬質な魅力を醸し出していると思います。

研究ってやってみれば無限にテーマが存在することがわかります。「ママの研究」や「消しゴムの研究」といった生活のかなものから、「宇宙」「星」「昆虫」「植物」といった学術的に価値を持つ可能性のある深いものまで、対象も取り組みの程度も本人が決めること。つまり本当に自由です。ちなみに、私が大手出版社の「夏の自由研究コンクール」の最終審査員をやって数年たちますが、昨年最優秀賞に選ばれた「キノコの研究」の男の子は、あとから花まる学習会の会員だと判明しました。日本一の当事者がすでに仲間として存在します。

わが子を間違いなく伸ばす自由研究を、親子で楽しみましょう。

今年度も開催決定！



▶▶詳細は本誌5ページをご覧ください。

新刊情報

『マンガでわかる！ 10才までに覚えたい笑う4コマ日本の歴史』

高濱正伸／狩野崇 監修
(永岡書店)



旧石器時代から平成までの主な出来事を4コママンガで描いた日本史マンガの決定版。小学校で学ぶ主要なテーマを厳選して掲載しているので流れをつかみやすく、知識ゼロでも楽しく読めます。各出来事が1ページで完結し、どこからでもバラバラ読める構成。リビングに置けば、自然と歴史好きになる一冊です。



花まるだより 2026年6月号

(令和8年6月15日発行)

編集・発行 株式会社こうゆう
花まる学習会
発行人 高濱正伸
企画・編集 久慈 菜津紀
編集 金井 彩・清田 奈雨
坂田翔・高橋 奈穂
デザイン 春日 梨沙・西野 奈布子
印刷 アークランド株式会社

全国の花まる教室長、約150人をまるっと一年かけて高濱が直接インタビュー！高濱による他已紹介「タカタコ」で、みなさんの教室長を紹介します。今年は「私のふるさと」をテーマに、教室長一人ひとりを深掘りしちやいます。サマースクールや雪国スクールで会ったリーダーたちも探してみてくださいね！



はなまる野外体験 ニュース



野外体験部のギャラクシーが、
花まる野外体験についてお届けします！
「花まるの野外体験ってどんな企画があるの？」
「次に参加できる企画は！？」
「無人島のいまをもっと知りたい！」
など、実際に企画に参加する以外にも
花まる野外体験を楽しむコンテンツをご紹介します。

ギャラクシー
尾瀬戸 涼
(花まる字音会)

わくわく
するね！

春も夏も秋も冬も！ 花まる野外体験！

それぞれの企画や開催時期、活動内容は、野外体験サイトをチェック！
参加者の声や、野外体験についてのQ & Aなども掲載しています。

花まる野外体験サイト▶



1

夏はすぐそこ！ 花まるの夏がはじまるよ！ サマースクール コース紹介動画を見てみよう



サマースクールコース紹介▶

長谷川レフティ-陽介

横浜の港南台で育ちました。高度経済成長期を経てどんどん豊かになる時代の、大都会でもど田舎でもない微妙な住宅街。不良から優秀な子まで多種多様に存在していました。いまはもうないですが、隣の小学校同士の対決があったり、ヤンキーのお兄さんにエアガンを持って追いかけられたりもしました。秘密基地は丸太や枝、葉っぱで作るイメージですが、我々は外に出された筆筒などの粗大ごみを集めて制作していました。

② 「まいにち花まる」で スペシャル動画を配信中！



無人島・花まる子ども冒険島での
活動の様子をお届け！

これまでのスペシャル動画も要チェック！

ギャラクシーも
ついに出演！



視聴はこちら▼



花まる子ども冒険島
Instagramも更新中！



花まる子ども冒険島▲

③ YouTubeで投稿スタート！

家族みんなで楽しめる動画をお届け予定です！
どうぞお楽しみに～！！



ファイヤーの
野外体験チャンネル



チャンネル登録とグッドボタンもよろしくお願いします！



📷 齋藤まっちゃ歩美

小2のときに「空気がきれいで自然が豊かなところへ引っ越そう」と両親が話し合っ、家族で鎌倉に引っ越しました。山も海もあって、森のなかでは秘密基地を作って遊びました。鎌倉高校の裏手の山で、風向きによっては吹奏楽部の演奏が聞こえてくるのです。家は坂の上のほうにあったのですが、わりとすぐのところ一気に下る坂道があって、そこから下を眺めると町や海が一望できて本当にきれいでした。

はな
花まる

自由研究コンクール 2026



これからの時代は、「ハカセ力」とも呼ぶべき、一つのことをとことん研究調査したり、探求したりする力も、大きな「生きる力」となります。アカデミックな世界で研究に一生を賭けている研究者のほかにも、さかなクン、「コテンラジオ」の深井龍之介さん、「YAMAP」の春山慶彦さんなど、一つのことを大好きで深掘りすることによって生計を立てている素敵な大人たちが次々と生まれています。

誰がなんと言おうと、大好きなことがあればそれは宝物です。その宝物をとことん研究してください。生活のなかの身近なちょっとした疑問を探求するのもよし。研究対象の分野は無限にあります。たくさんのご応募をお待ちしています。(高濱正伸)

型を知っていれば取り組みやすい!

自由研究 基本のキ!

① 題名 (どんな研究をしたの?)

② 動機 (なぜ研究したの?)

③ 方法 (どうやって研究したの?)

④ 結果 (何がわかったの?)

⑤ 考察 (なぜその結果になったの?)

⑥ 感想 (どんなことを思ったの?)

1 題名
(どんな研究をしたの?)
キミの研究内容を一言で書こう! 読む人がわくわくするような題名をつけよう!

2 動機
(なぜ研究したの?)
この研究にチャレンジしようと思った理由を書こう! 自分の感じていたことや疑問に思っていたことを素直に書いてみてね。

3 方法
(どうやって研究したの?)
この研究のやり方や使った道具を書こう! ほかの人がキミの研究をマネできるくらい詳しく書いてね。

4 結果
(何がわかったの?)
記録したことを絵や図、言葉でかこう! わかったことや気づいたことも加えてみてね。

5 考察
(なぜその結果になったの?)
その結果になった理由を考えて書こう。予想と結果が違っていたらその理由も考えてみよう。

6 感想
(どんなことを思ったの?)
研究を通して感じたことを書こう! 研究する前としたあとでは、自分にどんな変化が起きているかな?



究極の自由研究として高濱も絶賛!

『僕には鳥の言葉がわかる』

鈴木俊貴 著 (小学館)

「もっと知りたい!」が
あふれる一冊!



2025年度の入賞作品

ほかの人の研究も
参考にしてみよう!

「日本のカブトムシ・クワガタはへっている? 小さくなっていく? 日本のカブトムシ・クワガタをふやすために「はくがでること」

「納豆のきらいなお父さんが大好きに!」納豆ネバネバ大実験

- 応募資格** 花まるグループに在籍する
小学1年生~中学3年生
- 提出方法** データ送信
- 提出規格** A3用紙片面1枚
- 提出締切** 10/31(土) 19:00
- 評価基準** 着眼点、努力量、表現力



詳しい提出は
こちら!

「日本のカブトムシ・クワガタはへっている? 小さくなっていく? 日本のカブトムシ・クワガタをふやすために「はくがでること」

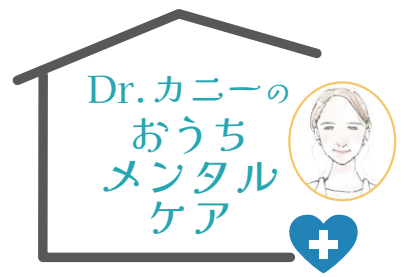
「納豆のきらいなお父さんが大好きに!」納豆ネバネバ大実験



全入賞作品はこちら▶

タカノコ 畑野うーどん詩奈

熊本県の八代市で育ちました。有名なのは「777段」。東片自然公園にある777段の石段です。部活の中高生が鍛錬のためにも使っていました、私自身もよく登っていました。頂上からは八代の町も球磨川も八代湾も、遠く天草も雲仙も一望できる絶景ポイントなのです。天草に沈む夕陽は本当にきれいでした。高校から富山県へ越したのですが、名水の町から名水の町へ転居した自分は水とのご縁に恵まれているのかもしれない。



Dr.カニの
おうち
メンタル
ケア



かえ あやこ
蟹江 絢子

あじさいクリニック (児童精神科・精神科・心療内科) 院長。二児の母としての経験も活かし、日々の生活や子育てに役立つ情報を発信中。著書は『対話の科学 親子編 子どものおこころを強く成長させる 33のセオリー』(こころのサイエンス文庫) など
あじさいクリニック公式サイト▶



今月のお悩み (年長男子)

不器用なことを、本人が気にしはじめています。「あの子はできるのに、僕はできない」という発言も多くなってきて、ほめても効果がありません。どんなふうに声をかけるのがいいでしょうか。

比べるようになるのは成長のサイン

年長くらいの時期になると、「自分」と「ほかの子」を比べる力が発達してきます。それまでは「やりたい」「楽しい」という気持ちを中心だった子どもが、「あの子はできるのに、僕はできない」と言うようになるのは、発達として自然な変化です。これは、自己評価の芽生えでもありません。「自分はまわりから見るとどんな人だろう」と考えはじめているサインです。年

長の段階でこうした比較ができるのは、むしろ発達が進んでいる証とも言えるでしょう。

ただし、この時期の子どもはまだ客観的に自分を見ることができません。そのため、一つできないことがあると、「できない自分」すべてがダメ」と感じやすいのも特徴です。特に不器用さがある場合、周囲との差が目につきやすく、自信を失いやすい時期でもありません。だからこそ、まわりの大人のかかりがとて大切ですよ。

「ほめていのに響かない」理由

保護者の方が「これができています」「ここが素敵だよ」と伝えても、あまり効果を感じられないかもしれません。それは、子どもがいま感じているのは「評価を求める気持ち」ではなく、「悔しげ」や「不安」だからです。「あの子はできるのに」という言葉の背景には、

「がんばっているのにうまくいかない」

「追いつけないかもしれない」

「自分はダメだと思われているのではないかな」

といった気持ちが隠れています。このようなときは、ほめられても子どもの気持ちは追いつきません。まずはいままの気持ちを受け止めることが大切です。

Step 01 気持ちに寄り添う

まずは、子どもの気持ちに寄り添う声かけをしてみましょう。

「がんばっているのに、うまくいかないと悔しいよね」

「あの子ができるよ、気になるよね」

このように気持ちを言葉にしてあげると、子どもは「わかってもらえた」と感じます。この経験は、自信の土台になります。自信は成功体験だけでなく、失敗しても大丈夫」と感じられる安心感のなかでも育つからです。

Step 02 結果ではなく過程を認める

次に大切なのは、結果ではなく過程を認めることです。

「できたね」「上手だね」ではなく

「さっきより長くやっていたね」

「おきこめずにがんばったね」

と伝えることで、子どもは「できるかどうか」ではなく、「挑戦すること」に価値を感じるようになります。すると、「できないからやらない」「ではなく、もう少しまつてみよう」という気持ち芽生えます。この経験が、あとから自信につながっていきます。

「自信になるもの」はあとから見つかる

子どもの強みはさまざまなどころから育ちます。運動が得意な子もいれば、観察力が鋭い子もいます。創作が好きな子もいれば、人へのやさしさが強みになる子もいます。こうした強みは、年長ではまだ見えていないことも少なくありません。「まだ見つからないだけ」ということも多いのです。

「できることは、人それぞれ違うよ」
「ゆっくり上手になるタイプかもしれないね」

「やってみようとしているの、いいね」
これらの言葉で、「できる・できない」という視点から、「いまは成長の途中」という視点へと子どもを導きましょう。

自信は関係性のなかで育つ

子どもの自信は、何かができたときだけに育つものではありません。

・安心して話せる人がいる

・失敗しても受け止めてもらえる

・気持ちをわかってくれる人がいる

こうした経験のなかで、少しずつ育っていきます。子どもが自分なりの強みを見つくるまで、その過程を見守ることが、いま大人にできる大切なかわりなのかもしれません。

伊井なでこ 祥花

都心の目黒区で育ちました。もちろん地元公園でも遊んだのですが、スーパーマーケットのなかで鬼ごっこをして怒られたりもしていました。自由が丘のゲームセンターに行くのは、当時とても楽しみなイベントでした。とはいえ、地元が好き理由は、碑さくら通りや目黒川沿いの桜並木でも知られるように、自然と住宅街がバランス良く共存しているところです。いまでも姉と一緒に犬を連れて花見に出かけています。



こんげつ 今月のレインボータイム

【いろいろ積み木タワー】

わく 粋のなかに積み木を立てました。

■ 赤は 1段、■ 青は 2段、■ 緑は 3段、■ 黄色は 4段の積み木です。

前から見た図と左から見た図をヒントに

どこに何段の積み木が置かれているかを考えて、粋のなかに数字を書き入れましょう。



しゅつだい みずぐち れい 出題：水口しえふ玲 (花まるA1S)



問題 解答

例

上から見た図

?	?
?	?

左

粋のなかのどこかに赤と青の積み木を1つずつ立てたよ

ヒント

前から見た図と... 左から見た図と...

上から見た図



どこに何段の積み木が立っているかを数字を書き入れよう

レベル5

上から見た図

左

粋のなかのどこかに赤と青の積み木を1つずつ置いたよ

ヒント

前から見た図と... 左から見た図と...

レベル10

上から見た図

左

粋のなかのどこかに赤と青の積み木を2つずつ置いたよ

ヒント

前から見た図と... 左から見た図と...

レベル50

上から見た図

左

粋のなかのどこかに赤、青、緑、黄色の積み木を2つずつ置いたよ

ヒント

前から見た図と... 左から見た図と...

レベル30

上から見た図

左

粋のなかのどこかに赤、青、緑の積み木を2つずつ置いたよ

ヒント

前から見た図と... 左から見た図と...

ヒント

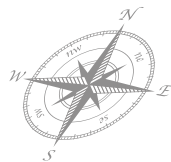
前から見た図と... 左から見た図と...

花岡ヒーロー宏哉

浦和の街で生まれ育ちました。一斉に大規模再開発したような町と違って、良い意味でこじんまりした個人商店が立ち並び商店街などがあります。そのなかの居酒屋に入ると浦和レッズのカーンを持っている人がいたり、試合の話をしている人がいたりする「サッカーの町」の感じが好きです。特に、試合の日になると、多くの住宅の窓にレッズの赤い旗が掲げられるのですが、それを見ると気分が上がります。

今どうしてる？

卒業生物語



花まる学習会・スクールFC卒業生のその後に迫ります。
第39弾は、作文特訓で言葉の力に磨きをかけた、
伝説の卒業生に箕浦健治がインタビュー！

ようこそ先輩!!



山口春樹さん

【花まる学習会】小2～小6
【スクールFC】小4～小5
*担当教室長：箕浦健治、松島伸浩 ほか
【進路】佼成学園中学校・高等学校→筑波大学
【現在】大学生

■花まるの思い出

箕浦 印象に残っている花まるの教材はありますか？

山口 たこマンです。みんなのアイデアを聞くのも、自分で考えるのもすごくおもしろかったです。

箕 あの頃はまだ、毎回の授業ではたこマンをやっていたのかな。

山 最初は特別授業でしかできないゲームだったと思います。本当に大好きで、いつも心待ちにしていました。

箕 “正解”のないものを考えることを楽しめていたんだね。

山 なぞ、ペーも好きでした。しっかり数学

の要素があるのに、遊び感覚で取り組めました。

箕 野外体験は覚えてる？

山 「ファイヤーと行くサマースクール」に参加しました。海で思いっきり遊んで、海の家でみんな寝て……本当に楽しかったです。雪国スクールでは、帰りに大雪でバスが動かなくなるトラブルもありました。ハプニングを乗り越えて電車で帰ったのもいい思い出です。

箕 よく覚えているなあ。あのとき、湯沢の宿の方々がみんなのためにおにぎりを作ってくれたね。



▲サマースクールにて

■作文特訓の日々

山 もう一つ強く印象に残っているのは、小学5年生の1年間、健治先生（箕浦）に徹底的に作文指導をしていただ

いたことです。

箕 本当によく頑張ったよな。

山 健治先生が根気強く教えてくださったおかげで、作文コンテストで学年優秀賞をいただくことができました。箕 春樹の作文は決して下手ではなかったんだけど、どこかタスクとしてこなしていたというか……目に見えることが感じたことの描写だけでなく、読み手の心に届く深みももう一歩ほしかった。入会後、最初にお母さまからいただいた相談もそこだったんだよ。

山 私は幼い頃から自信過剰なところがあるので（笑）、作文にも苦手意識はなく、うまく書けているつもりでした。だからなぜ作文コンテストで賞をとれないのかわからなくて悔しかったんです。健治先生が「自分と向き合って書いてごらん」と言い続けてくださったって、少しずつ内面を書けるようになりました。

箕 模範解答を書くこととしていた春樹が、本気で自分の心に向き合うようになったんだね。
山 健治先生が教えてくださった「そのとき自分は何を思ったのか、そこか

ら何を学んだのか」と向き合うことは、大学受験にも就職活動にも活きました。文章力への自信だけでなく、自分を表現するあらゆる場面で必要な土台を築くことができました。

箕 春樹にとって花まるは、どんな場所だった？

山 “素直でいられる場所”でした。花まるの先生方はみなさんいつも本気で心から楽しそう。だから高学年になっても「本気になるなんてタサイ」と思わずに全力で楽しめました。何事にも素直に、本気で向き合うことは、人生を切り拓くうえでとても大切だと思います。

箕 本当に嬉しいよ。これからも応援しています！

山 ありがとうございます！



▲山口さん(左)と箕浦(右)

学生時代に打ち込んだことや
将来の目標、ご両親のことなど、
続きはこちら！



宮崎ウイング香純

西武鉄道新宿線の中井駅のある町で育ちました。都会の一部なのですが、妙正寺川の上に6列の布が何本も干すような形で飾られる「染の小道」という祭りは、ハレの時間でした。布の柄は実に多様で、なかには小学生たちが描いたものもあります。私も小学生時代に、一人一つの漢字を選んでみんなで描いた模様の布を飾りました。私自身は「笑」にしたのですが、出来上がりがとても綺麗だったことを覚えています。



「切り替えられないときは？」

「やめられない」に困ったとき、それは問題ではなく成長のサインかもしれません



👤【1年生男子】保護者からの相談

好きなことに夢中になると、宿題や準備の声かけをしても反応がなく、無理に止めると泣いてしまうこともあります。わが子の「いまこれをやりたい!」を尊重しつつ、自分で切り替えて課題に取り組めるようになるために、どのようなアプローチが必要でしょうか。



Rin

🌱「やめられない」のは、夢中になれている証拠

切り替えは、言われて身につくものではなく、自分で選び、納得する経験を重ねることで少しずつ育っていくもの。何よりも幼児～児童期は、自分の好きなことや夢中になれる遊びに没頭する時間を確保してあげることがとても大切です。そのなかでこそ本当の学びや達成感を得て、やり切る力や、その子らしさの土台を作り出しているからです(あまり早い段階から、予定や課題が多すぎて没頭する経験を持たないと、安心して集中できなくなる子もいます)。

子どもがいまやっていることをやめられないとき、それは大人を困らせようとしているのではなく、没頭する時間を守ろうとする自然な反応であることがあるのです。好きなことに深く集中してやり抜くような経験は、情緒の安定や自己肯定感につながり、結果として、切り替える力が育っていきます。



💡 気づき

すべて本人がやりたいと言ったものでも、習い事やタスクが多すぎて、遊びの終わりが常に見えているから、いざというときの切り替えが難しくなっているのかな……と気になっていました。

「本人の気持ちを聞きながら、対等な立場でのスケジュールの話し合い」をやってみます。「先にこれを終えたら、この時間は自由に使えるね」と見通しを伝えながら、一緒に時間の使い方を考えてみようと思います。



Rin

🌱 かかわり方のヒント

「やりたいことをする時間」と「何にも縛られない自由な時間」は別物で、それがどのくらい必要なかは人によってちがうので、様子を観察しながら見てあげるといいと思います(お母さまの勘はあたります)。以前のアトリエラヂオが参考になるかもしれません。お時間のあるときにぜひ☺️ いつか本当に自分を律してやらねばならない時期に頑張れる人であれるように、本人が自由に使える時間 + 没頭体験を大切にしてくださいね。

Rinせんせいのアトリエラヂオ

#172 「時間に追われて
余裕がないときは？
モヤモヤ解消法」



🚩 これから

本人がやりたいことを大切にしてきたつもりでも、自由に使える時間は足りていなかったのかもしれませんが。教えていただいた「アトリエラヂオ」も聴きました。言葉にして伝えること、ぎゅーっとする時間、大切ですね。1日1回でもそういう時間を作ろうと思いつつ、忙しさやイライラ、ちょっとした恥ずかしさを理由に疎かにしていました。さっそく再開したら、恥ずかしそうに、でも嬉しそうに甘えた声でぎゅーしてくれました。こういう時間を大切にしていきたいと思います。

「言われる切り替え」ではなく、「自分で選べる切り替え」へ
没頭できた時間が、その子の力になる

読むことのはじまりにあるもの



井岡 由実 (Rin)

Rinコラム

幼稚園時代の「えほんノート」を、久しぶりに開きました。園の図書室で借りた本の記録と、「だれに読んでもらいましたか」「おうちからのたより」の欄に母が書いたひとことコメント。年中の夏から卒園まで、一年半ほどの時間が綴られています。

年長になると、よろよろとした文字で「おもしろかった」と自分で書いている欄もあり、思わず頬がゆるみます。

けれど、それ以上におもしろいのは母の記録です。「何よこれ。どういうこと？ ママどう思う？」と問いかけてくる日もあれば、「おもしろいし絶対いい本やから、ママに聞かせたいと借りてきました」と誇らしげな日もある。「なんで戦争するの」と、ふと核心に触れる問いも残されています。

「帰ってすぐ、服も着替えず大声で読んでいます」「すーが8回あるのがおもしろいぞ」「呪文が逆さまだと発見して大笑い」

——そんな母の記述からは、言葉の意味だけでなく、音やリズムそのものを身体で楽しむ、幼児そのものの姿が見えてきます。

「字が少ない本を選んでる」「自分で読める分量の本を借りている」という記録が続く時期もあります。本の内容ではなく、「読めるかどうか」で選ぶ段階です。それがやがて、「最近はずかしく読んでる時間が長くなりました」という

記述へと変わる。本の世界に没入し、読むことそのものを楽しむ時代へと移行します。

物語の登場人物になりきって妹とごっこ遊びをする様子がしょっちゅう登場し、「くまさんみたいに優しくしてほしい」と母に自分の気持ちを伝えるきっかけにもなっています。

絵本が疑似体験の場であり、感情を言葉にする媒介であることも見えてきます。

そして何度も出てくる、「あまもりって何」「くやしってなに」「うつつ」という言葉の意味を質問する場面。興味深いのは、その一年半後に「最後の家出のとき、くやしかったんやろな」と、自分の言葉として使っていたことです。言葉は、その場で理解して終わるのではなく、時間をかけて身体に落ち、自分のものになっていく。ああ、子どもたちが言葉を獲得していく過程に、絵本の果たす役割は大きいな、と改めて感じました。

家庭での読み聞かせは、子どもにとって豊かでしあわせな時間です。大好きな人の声で物語を聴くこと自体が、すでに大きな贈り物です。だからこそ、読み終えたあとに問いを投げかけすぎないこと。同じ世界を体験した者同士、しばらく黙って浸る時間を大切にしたいものです。読書とは本来、自由な精神の営みだからです。

一方で、低学年授業で扱う「さくら」では、読み聞かせをしたあとにあえて質問をします。

それは聴くなかで「くまなく、一度で、想像しきる力」を育てるため。聞き逃さない集中力やイメージ力を鍛える、意図的なトレーニングです。

同じ「読む」という行為でも、目的によってかわり方は変わります。けれど原点には、あの「えほんノート」にあったような、自由であたたかな時間があるべきだと、改めて思うのです。

最後にこんな一文を見つけました。「私も先生になりたい。でも恥ずかしいから書かん」といてと言っています。自分がそんなことを言っていたなんてちっとも知りませんでした。



詳細・お申し込みはこちら！



申込締切 7/1 (水) 19:00

7/19日 10:30~12:00
@お茶の水花まるラウンジ

対象 年長~中学生
定員 25名(予定)
参加費 1名4,400円(税込)

ARTのとびら Atelier for KIDS

アーティストの視点と教育者のまなざしで創作と鑑賞を導きます。内容や様子は、HPより「活動の記録」をぜひご覧ください。



柏倉のりまき梨乃

生まれも育ちも埼玉県川口市。ベッドタウンの住宅街で特にこれというものもないのですが、花まる学習会が爆誕した川口ふたば幼稚園(現在は川口ふたばこども園)の出身であることは自慢です。父が群馬、母が沖縄出身で、2つの故郷があったのは良かったです。群馬では、祖父が中之条町に山を所有していたので外遊びをやり放題でした。沖縄は宮古島・石垣島にたくさん親戚がいる大家族で、行くたびに赤ちゃんが増えているのが楽しかったです。

花まるリビング

vol.58

「なぞペー」のスマールステップ



Satomi
勝谷 里美
Katsuya

小学1〜3年生コースで扱っている思考力教材「なぞペー」では、「空間認識」「平面図形」「試行錯誤」「発見」「論理」の5分野の問題に触れながら、幼児期だからこそ伸びる力を育てていきます。また、花まるの教室だからこそできる寄り添い方で、「できちゃった!」「わかつちゃった!」という感覚を積み重ね、「考えることって楽しいな」という土台を3年生までに作ることも大切になっています。

さて、わが家の年中の次女は水泳教室に通っています。いまぶつかっているのが、「跳び込み」の壁。膝上ほどの水深のプールに、コーチと手をつなぐずに一人で跳び込む——それができず、固まってしまうのです。

見学席からの印象ですが、次女にとっては技術的に難しいというよりも、心の壁が大きいように感じます。まわりの子が次々と跳ぶなかで、自分だけが跳べずに流れを止めてしまう。

「今日は跳べるかな?」という周囲が固唾をのんで見守るような空気がプレッシャーとなり、さらに動けなくなる……。そんな悪循環が起きているように感じました。

次女のその姿を見て、花まるの教室で、なぞペーが難しく手が止まってしまう子どもたちの姿を思い出しました。

なぞペーの指導では、「スマールステップ」を大切にしています。手が止まってしまったときは、ヒントを渡しながらかその子の思考を少しずつ引き出し、階段を登れるようにサポート。そして最後の一段は、自分の力で「できちゃった!」「自然と、わかつちゃった!」という感覚で登りきってもらいます。

実際、わが家の小学4年生の長男もその積み重ねのなかで、考えることを楽しめるようになってきました。今年度から高学年コースで取り組みはじめた「Sなぞペー」は、高学年ならではの思考力問題を週に1問、考え抜いて

くることが宿題です。試行錯誤を繰り返して、考えた跡を残す経験のなかで、「本質を見抜く力」や「やり抜く力」を鍛えてもらっています。

Sなぞペーの1回目に取り組んだときのこと。親も一緒になってうんうんながら、答えを導き出したとき、「たっのし〜!」と一言。またその解説を聞いたときには、「よく、こんな問題を思いついたねえ」と(なぜか、上から目線ですが……。)。そして、最後に「先生が解いたら、俺よりすっごく早く解けた!」と感嘆の一言。

その三つの言葉に、小1〜小3までの三年間のなぞペーで積み上げてきたことが詰まっているようです。

- ・考えること自体を楽しんでいる
- ・他者(問題作成者)に思いを馳せる視点が育っている
- ・自分の出した解答よりスマートな別解があることをすごいと思える

——まだまだ幼さもだいぶ残る彼ですが、この土台があればこの先も大丈夫そうだな、と親としては嬉しく見守っています。

話を戻すと、きつと次女の跳び込みにも、いま必要なのは同じこと。確実に越えられる小さなステップとそのサ

ポートを積み重ね、「気づいたら、できちゃった!」という感覚を体験させてあげたいと思っています。それは、学びの場面でも、日常のさまざまな挑戦でも、子どもが前に進むための大切な鍵です。

お祭り



『えんにち』
五十嵐 豊子 作
(福音館書店)

文字のない絵本。だからこそ、親子の会話が弾む一冊です。緑日の美しい夜店が丹念に描かれています。どのお店に行きたいか話し合ったり、去年のお祭りの思い出を語り合ったり。たくさんのお祭りを楽しんでください。



『おまつりとごちそうで世界いっしゅう』
アリス・B・マッキンティ 作
スズキトモコ 絵
星野由美 訳
(汐文社)

長男が好きで、何度も図書館で借りてくる本です。韓国、ボリビア、ナイジェリアなど12か国のおまつりとごちそうを紹介。大人でも「へ〜」と思うような発見がたくさん。新しい世界が広がります。同シリーズに『あさごはん世界いっしゅう』(汐文社)も。

生駒まっしゅ春佳

大切な故郷はアメリカ西海岸のサンディエゴです。学生時代の留学先ですが、太平洋に沈む夕陽を見るのが好きでした。ある日「この向こうにお母さんがいるんだな」と思って写真を送ったら、母も綺麗な夕陽の写真を撮った日でした。いつか母と、と願いつづけ、ついに一昨年実現しました。一緒にひととき綺麗な夕陽を見られたことも感動でしたが、子どものように水に入ってはしゃぐ両親の姿を見ることができて涙が出るほど嬉しかったです。

わか家の自由研究

vol.25

ウッキーの自由研究④

サマースクールのすゝめ

Masahiko
臼杵 允彦
(ウッキー)
Usuki

先日、近所の公園で開催されたチューリップフェアに、4歳の次男と二人で行ってきました。「お花つてキレイだね」ともらず次男の心に癒されながら園内を歩きます。やがて黄色い炎のようなチューリップの前で、次男の足が止まりました。「これは、なあに？」Googleレンズで調べると、ばななファイヤーという種類でした。「ばななファイヤー!?」見た目を表した名前がついたその花に、次男の心は驚つかみにされ、公園中を探しまわりました。

帰る時間になり、いつもの道を歩いてみると、次男がはっと驚きます。「パパ、このお花、なあに?」「これは、パンジーだよ」と教えると、「パンジーか……」と満足して歩き出します。そしてまた花を見つけると、名前を聞いてきます。やがて野草の花も見逃さず聞くようになり

した。好きなものに没頭するいまを大事にしたいと、聞かれる花を片っ端から調べました。いつもは15分ほどの道も、気づけば1時間半以上かかっていた。そして家まであと1ブロックのところで、私の心が折れてしまいました。

「パパ、このお花は?」「これはね、草だよ」「草か……」歩き出す次男。「パパこの花は?」「これも草だね」野草の花を、とりあえず「草」と返してしまっ私。

しまいは家につく直前、「パパ、草ばかりだったね」と言われる始末。まだまだ修行が足りないと実感した日曜日の午後でした。

さて、まもなくサマースクールがはじまります。

ここからは、小6になった長男の話をします。彼は小1の頃、学校でよくいじわるをされていました。そのため、深夜に妻と会議をすることもしばしば。そのたびに、「親が出るのではなく、息子にはもめごとを自分ではねのけていけるよいうな人に育ってほしい」と夫婦で話していました。花まるのサマースクールがコロナ明けで完全復活したタイミングとなり、わが子には可能な限りすべての野外体験に参加してもらおうと決めたのです。

あれから早5年。長男は、サマースクールや雪国スクールなどの宿泊企画に、計11回参加しました。振り返ってみると、野外体験のおかげだと感じる成長がたくさんありますが、そのなかの一つを紹介します。

小学校の授業参観でのエピソードです。その日の授業は、子どもたち一人ひとりが読み札と絵を描いた取り札を作り、最後にみんなでカルタで勝負するという内容でした。マイペースな長男はなかなか札を取ることができず、なんと自分の作った札まで友達に取られてしまいました。「落ち込んだかな?」

という私の心配をよそに、長男はずっと楽しそうにしています。そして、最後の読み札を先生が読むとき、1枚も札を取っていないのは長男のみとなりました。

子どもの世界は容赦ありません。最後の1枚も取られてしまいました。長男に再び目をやると、「ノー! 取れなかった! でも楽しかった」と友達と肩を組みながら席に戻っていきました。正直、驚きました。私だったら、肩を落としてしまおうでしょう。「どうして長男は、まわりの子と比べないのだろう?」素朴な疑問がわきましたが、すぐに「野外体験だ!」とつながったのです。花まるの野

外体験では、初めましての8〜10名が異学年で同じ班になり、寝食をともにします。彼はこれを11回やっているの、単純計算すると、約100名の子と出会い、仲間になってきたことになりました。それはそれはいろいろなことがあったに違いありません。親友もできたし、喧嘩もあつたし、助けてもらったし、お世話もしたし。そのなかで、誰に言われずとも、「みんな違って、それでいい」という価値観が形成されてきたのではないかと思います。

私には、親としても、教室長としても、大事にしている教育観があります。それは、物事を相対的に見るのではなく、目の前のことを純粹に楽しみ、人と比べない人に育てたいということです。何でも相対的に見る癖がついてしまうと、究極、誰かが幸せになると、自分が不幸になっ

た感じがしてしまいかねません。私も人と比べてしまうことは正直なところありますが、いろいろな人と出会って、さまざまな価値観に触れてきたことで、自分があるままでもいられるようになりま

した。子どもたちにとって、経験に勝る糧はありません。サマースクールが、子どもたちの未来の幸せにつながっていきますように。

📍 鈴木バビーあかり

三重県桑名市長島町が故郷。木曾川、長良川、揖斐川に囲まれた、その名の通り長つ細い島です。ナガシマスパーランドという遊園地が有名で、その隣にはアウトレットモールがあって買い物を楽しめますし、イルミネーションと季節の花が美しい「なばなの里」もあるし、温泉もあります。実家も温泉を引いていて毎晩入っていました。ほかの温泉地にも多数行きましたが、長島こそ芯から温まる最高の温泉です。



『えほん 東京』

小林 豊作・絵
(ポプラ社)

「東京は、不思議なまちだ。いまとむかしが、かさなりあって、生きつづけている。」品川、墨田川、浅草など、東京の街を散歩する「ぼく」とおじいちゃんの眼前に次々と現れる、数多の失われた風景や人々。春夏秋冬と移り行く季節のなか、まちの記憶を辿る幻想的な旅が描かれます。遠くに行かなくても、自分の住んでいる町にも素敵な歴史や物語が秘められていると感じさせる、珠玉の一冊。同じ著者による、2025年に産経児童出版文化賞・産経新聞社賞を受賞した『えほん ときの鐘』(ポプラ社)もあわせておすすめ。



『白狐魔記 源平の風』

斎藤 洋 著
高島 純 画
(成成社)

白駒山の仙人の弟子となって修行し、永遠のいのちを得た妖怪のきつね、白狐魔丸。第一作である本書では、彼が源義経一行と出会って源氏と平氏の争いに巻き込まれ、この世の無情、人間の本質について考えます。続くシリーズでは蒙古襲来、隠れキリシタン、信長の天下統一などが描かれます。「半分実話、半分ファンタジーでおもしろい!」「歴史はちょっと苦手だったけれどこれは読めた!」と絶賛する子どもも多い本シリーズ。日本の歴史への興味が深まること請け合いです。



『小泉八雲先生の「怪談」蒐集記』

峰守 ひろかず 著
(KADOKAWA)

小泉八雲ことラフカディオ・ハーンの名著『怪談』成立の背景には、こんな出来事があった——? 東京に妻子と暮らす帝大教授・八雲のもとに、松江出身の少女・好乃が女中として雇われることに。やがて、食人鬼、怨霊、雪女、むじななど数々の「この世ならざるもの」が関係する事件が発生し、それとともに好乃の「ある秘密」も明らかになっていく……。怪談はなぜ生まれ、語られつづけるのか? 激動の時代を背景に深遠な謎が描かれる、文豪×怪異×ミステリー。

新井ライガー 征太郎

東京は国分寺市の育ち。都内の住宅地なので何を語ろうか迷いましたが、母校、都立国分寺高校にします。進学校でありながら、文化祭や体育祭では高3も秋まで猛烈に熱中して創り上げ、その後ようやく受験勉強という大らかな文化があります。部活動も真剣で、私の野球部も最後の夏の大会では甲子園に行った日大三高に準々決勝で10-7で負けるところまでは粘りました。最高の青春の思い出がいっぱいです。



平沼 純の

旅する読書

vol.79

どこまでが現実? どこからが想像……?



『博物館の少女 騒がしい幽霊』

富安 陽子 著
(成成社)

舞台は文明開化の帝都・東京。不思議な異能力を持つ少女イカルが、博物館にある「怪異研究所」で働きながらさまざまな怪奇現象に遭遇するシリーズの第2弾。今作ではNHK連続テレビ小説「風、薫る」にも登場する「鹿鳴館の華」山川捨松と、陸軍卿・大山巖夫婦の屋敷で起こったポルター・ガイスト現象を調査することに……。謎が謎を呼ぶストーリー展開が魅力の歴史ミステリー。煉瓦造り時代の東京国立博物館をはじめとした東京の情景も魅力的に描かれて、読めば上野・神田界隈を歩いてみたくなるかも。



『フィボナッチ 自然の中にかくれた数を見つけた人』

ジョセフ・ダグニーズ 文
ジョン・オブライエン 絵
渋谷 弘子 訳
(さ・え・ら書房)

夏の自由研究のテーマ選びに迷ったらこれがおすすめ! 史上最も優れた数学者の一人とされる、レオナルド・フィボナッチの半生を描いた伝記絵本。1、1、2、3、5、8、13、21、34、55、89……。自然界のあらゆる場所に隠されている「フィボナッチ数」が明かされるページでは、ある人物とのファンタジックで不思議な対話も相まって、鳥肌が立つほどの感動を味わえます。

読書講座

～2026年夏、この一冊をあなたに～

第3回 本×夏休み

7/16(木)
10:30~12:00

@スクールF C 用賀校
参加費: 500円(税込)

詳細はこちら



※品切れなどの場合は図書館で探してみてください。



六月の楽しみ

電車が止まり、ふと目線を上げると、きれいに咲いたアジサイが目飛び込んできました。生命力にあふれた緑色の葉に、薄い水色のガクが淡い花火のように広がっています。アサガオやアジサイのように、水彩絵の具で描いたような色合いの花が昔から好きでした。雨に打たれる喜びを全身で味わうかのよう、アジサイは咲いています。

もし六月にアジサイの花が咲かなかつたら、私たちはこの季節を我慢することができたでしょうか。降りつづける雨にジメジメとした空気、サウナに入っているかのようにじみ出てくる汗。物憂げな六月の雨のなか、せめてもお詫びにとでも言うように咲いているアジサイの美しさは、これで帳消しというわけにはいきませんが、こ

の季節を楽しめる理由のひとつになっています。

電車から見えるアジサイに気づいたのは私一人ではありませんでした。幼い子どもを連れのお母さんが、子どもに語りかけていました。

「アジサイだよ、すごいね、きれいだね」子どもはまだ言葉を話せない年頃のものでしたが、大きな瞳に水色の影を映していました。

このようにして、人の感性は受け継がれていくものなのでしょう。何かを美しいと思う感覚は知識ではありませんが、人から人へと受け渡されていくものなのだと思います。心が動いた瞬間を言葉にして伝えることで、子どもの感性の網の目が、蜘蛛が糸を引くように張りめぐらされていく。そんなイメージが私にはあります。

先日の授業で、1年生の子が涙を流す場面がありました。日々の頑張りの疲れが出たようです。少し気持ちを落ち着かせてもらおうと、窓際で風に当たるように伝えました。しばらくシクシクと泣いていましたが、外に置かれた植木鉢に気づくと一瞬で泣き止みました。「これは〇〇だ!」と言い、さらに茎に結ばれたチョウのサナギを見つ

けて喜んでいました。元気を取り戻したことに安心しましたが、それ以上に、この子のなかにこのような感性が育まれていることが嬉しく思えました。

目の前にあった小さな鉢植え。その小さな世界にしっかりとうごめいている生命の発見を、まるでジャングルで新種の生物を見つけたかのように興奮できる感性。その興奮から、世の中は素晴らしい驚きにあふれているということへの喜びが感じられたのです。

昨今では「経験格差」ということが言われていますが、大人がどんなに心配しても、当の子どもたちにとっては大した問題ではないのかもしれない。松岡正剛さんは田中優子さんとの対談本『江戸問答』（岩波新書）のなかで、このように言っています。

「ほんとうは自然観を養うのも人間観を養うのも、大事な一本の木さえあればいいのかもしれない」

この言葉を借りるのであれば、私の教室の子のほうが一枚上手なのかもしれません。一本の木よりも小さい、植木鉢のなかに感動を見つけたのですから。感性の豊かな子どもたちは、小さな鉢植えであっても自然を十分感じ取

ることができるのです。一匹の虫に自然を見出し、一個のボールで遊びつづける力を子どもたちはもっています。

そんな子どもたちの力を引き出すために、大人の私が大事にしたいと思っているのは、やはり言葉です。電車の中で見かけたお母さんがしていたように、小さな感動を語りかけることで、子どもの感性は引き出されていきます。植木鉢のミクロコスモスに感動していた教室の子も、周囲の大人たちの言葉で豊かな感性を育んできたでしょう。

自分自身でもう思い出すことはできませんが、アジサイの美しさも子どもの頃に誰かが教えてくれたものには違いありません。そして感性の継承は、なにも子どもに限った話ではないと思っています。坂本龍一さんの早すぎる晩年を追ったドキュメンタリーで、雨の音を楽しむ音楽家の姿が映されていました。私もそれ以来、雨の音を楽しんでいます。またひとつ、六月を好きになる理由が増えました。

Hanamaru Family

花まるファミリー

花まるの
教室長を
紹介します!

サマースクールや
雪国スクールで会おうね!

is ...花まる All Inclusive School FC ...スクールFC

みんなの教室長も
順番に紹介するよ。お楽しみに!



井上 涼太

神奈川県 神奈川県



川岡 未歩

愛知県



早乙女 優介

東京都 神奈川県



佐藤 暢昭

埼玉県 FC 北海道



椿原 葵

関西 鳥取県



濱本 和美

神奈川県 広島県



水口 加奈

埼玉県 東京都



宮阪 太久哉

東京都 千葉県



山下 奈穂

東京都 福島県



山本 志保

東京西 島根県



高濱 正伸

〇〇〇 熊本県

.....リーダーネーム

.....名前

.....所属

.....出身地

井上サイン笑里

さいたま市の武蔵浦和で育ちました。出身小学校の真横にロッテの工場があり、体育などで校庭に出るといつもチョコの甘い匂いが漂ってきました。工場見学に行った際はできたてのコアラのマーチを食べた記憶があります。プロ野球・千葉ロッテマリーンズのロッテ浦和球場も近くにあり、一時期佐々木朗希選手も近くに住んでいたようです。球場横の道を通りかかるとフェンスに人だかりができていて、「今日も試合しているなあ……」と思ったものです。

6月の誕生花は ばら